

## 台湾人材を活用しながらIoT・ネットワーク市場を開拓するACCESS AP TAIWAN / 愛可信

株式会社ACCESSの台湾現地法人であるACCESS AP TAIWAN / 愛可信、IoT・ネットワーク事業や台湾向け通販業務システムの構築・運用を支援するサービスを行っている。自社開発のソフトウェア製品を多く有する独立系企業である。語学力やプログラミング能力に優れた台湾の優秀な若手エンジニアを活用し、更なる事業拡大も狙っている。今回は、ACCESS AP TAIWAN / 愛可信の小池清志副総経理を訪れ、台湾でのこれまでのビジネスの経緯や今後の展望についてお話を伺った。



愛可信股份有限公司 小池清志副総経理

### —株式会社ACCESSについて

当社は、1984年の設立以来、独立系ソフトウェア企業として、世界中の通信、家電、放送、出版、エネルギーインフラ業界向けに、モバイル並びにネットワークソフトウェア技術を核とした先進のITソリューションを提供しています。

累計搭載実績10億台突破のモバイルソフトウェア、並びに世界中の通信機器メーカー等への豊富な採用実績を誇るネットワークソフトウェアにおける開発力とノウハウを活用して、現在、クラウドを介してスマートデバイス上で多彩なサービスを実現するHTML5ベースのアプリケーション、並びにネットワーク仮想化(SDN)等の先進のネットワーク技術の開発・提供に注力しています。また、台湾の他、アメリカ、アジア、ヨーロッパ地域の子会社を拠点に国際展開も推進しています。

### —台湾でビジネスをはじめた経緯について

台湾は、ODM(Original Design Manufacturing)やSOC(System-on-a-chip)の関係での連携が必要であるため、これまでも10数年前から出張ベースでの訪問を継続していました。ところが、Palm Sourceの買収を契機に、10数年前から行っていた、自社OSのプラットフォーム事業が難しくなり、8年前に当該事業の中止を決断しました。その影響を受け、海外事業全体が縮小し始め、台湾拠

点の技術人員が3名になったため、台湾からの事業撤退も検討していました。そのような中、偶然にも日本の通販事業会社様と出会いから、台湾でのクラウド事業に展開するという話になり、CROS(事業内容の詳細は後述)を進めました。

### —台湾での事業内容について

当社では、台湾向け通販業務システムの構築・運用を支援するサービス「CROS™(Cloud Repeat Order System)」を開発し、主に通販業界の日系企業を対象に提供しています。本サービスは2014年6月より通販ASPとして運用開始されており、2018年9月現在 化粧品・健康食品通販企業 約40社に採用されております。

「CROS™」は、受注機能、バックオフィス機能、広告効果分析(CRM(顧客管理)を含む)機能を統合したパッケージであり、運用代行するサービスも機能化になっております。

また、すべての機能はクラウドと連携したASPサービスとして提供され、日本語・中国語(繁体字)に対応しています。英語にも順次対応予定です。

さらに、通販に必要な機能を独自開発し各事業パートナーとの連携を行っており台湾での通販事業を目指す企業や展開中の企業は、複雑なシステム構築や運用に煩

## 日本企業から見た台湾

わされることなく、短時間で自社ブランド製品を市場投入することが可能となります。

当社の強みとして、集英社「少年ジャンプ+」や講談社「週刊少年マガジン」の電子書籍採用事例もあり、これらのクラウド技術をAWS(Amazon Web Service)用いて、自社BrowserからIoT事業へのトータルソリューション展開も図っています。

また、開発言語にElixir(エリクサー)を採用しており、WEBアプリケーションフレームワークとして「Antikythera Framework(TM)(アンティキティラ・フレームワーク)」をOSSとして公開しております。IoTを用いて様々なデバイスからデータを取得し、クラウド上にデータ転送を行う際の言語として、このElixir言語を活用しており、台湾国内でも約15数名の若手エンジニアチームをもっております。

一方で、台湾事業を進める上での苦労もありました。台湾ではハードウェア技術に関する強みがありますが、ソフトウェアに対する付加価値意識が低く、投資への理解度が中々得られないという苦労がありました。組み込みソフトウェアの無償ポーティングサービス化をきっかけに、お客様との関係構築を行い、徐々にソフトウェアの付加価値を伝えていくという日々の積み重ねが非常に重要でした。

また、台湾は日本に比べると人材流動が激しく、キャリアアップを目的とした転職が数年の間に行われることもあります。そのような中でどのようにして、人材確保や定着を狙うかも課題になります。

### —今後の台湾での事業展望について

世間からの印象として、台湾＝ハードウェア事業が強い国という印象を抱かれています。私はソフトウェア事業も強い国と捉えています。また、台湾人材は言語面や文化面でも日本と馴染みやすい上に、最近では、学生時代に日本語とプログラミングを学んだ経験を持つ若手エンジニアも多いです。アジアだけでなく、グローバルでも通用する人材だと捉えています。一方で、北米や中国に台湾の優秀

な人材が流出してしまうこともあるため、台湾内でのソフトウェアに係る人材の確保と、日本企業との連携を引き続き深めていきたいと考えています。

事業面では、例えばCROS事業については、台湾だけでなく、国の配送インフラが整備されている香港、シンガポール、マレーシア等の海外にも順次展開したいと考えています。

さらに、今後はIoTの自社技術を活かしコールセンター、会計、流通・物流関連の事業にも展開したいと考えています。例えば、日本での事例で自動車保険事業が挙げられます。自動車の事故発生時に専用のボタンBLE(Bluetooth Low Energy)を押すだけで保険会社に接続され、事故状況や運転履歴情報をクラウド上に転送し、分析結果を次年度以降の新規保険サービスの立案に活かす等のアイデアです。

当社のIoT・ネットワーク事業をより広範な分野に活用したいと考えています。

### —ありがとうございました。

#### 愛可信股份有限公司の基本データ

会社名	愛可信股份有限公司 (ACCESS AP TAIWAN)
副総経理	小池 清志
設立	2016年
資本金	1600万元
事業内容	IoT・ネットワーク事業

注)2018年9月の情報による  
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理